

共に生きよう！ハートフル 2010

このコースでは、障がい者の方と直接交流することで、障がいについて正しく知り、これまでの偏見や先入観、誤解を取り除くことを目的としています。また、自分たちの力で情報をあつめ、障がい者の方や、施設に自分達で問い合わせをして、体験活動を計画し、行動していくことも課題としています。

◆◆◆グループ活動のテーマ◆◆◆

- A「手話」… (手話体験、手話サークル訪問グループ)
- B「身近なバリア」… (地域・校内バリアフリー調査グループ)
- C「盲導犬・聴導犬・介助犬」… (補助犬の現状調査グループ)
- D「視覚障がいとバリアフリー」… (疑似体験と京都ライトハウス訪問)

◆◆◆共通体験プログラム…伏見共同作業所訪問◆◆◆



☆ 事前学習(講演)と交流体験
メンバー全員の共通プログラムとして、知的障がい者が働いている「伏見工房」の施設長の上村さんによる事前学習(講演)と、共通体験として全員が2日ずつ訪問し、共に働き、直接ふ

れあうことを通して、障がいについての理解を深めてきました。

最初は、どう交流すればいいか不安で緊張しましたが、すぐに慣れて、自分たちに偏見や先入観があったことに気づかされました。普段ではできない貴重な体験でした。



(作業の様子…箱折り作業)

◆◆◆グループ活動内容◆◆◆

A「手話」… (手話体験、手話サークル訪問グループ)



伏見区で活動している手話サークル「つどい」を訪問。手話通訳ボランティアの方や聴覚障がい者の方の協力を得ながら自己紹介や質疑応答を手話を交えて体験。学校名や都道府県名を手話で学んだり、生活上で困っていることなども直接インタビューできました。

B「身近なバリア」… (地域・校内バリアフリー調査グループ)



(食品売り場での調査)

校内のバリアフリーの状態や丹波橋付近の状態を車いすを通して調査。さらには、最新の商業施設の「イオンモール京都」を車いすで疑似体験しながら調査。ちょっとしたことがバリアとなる現実や少しの工夫で改善されることも多いことがわかりました。

C「盲導犬・聴導犬・介助犬」… (補助犬の現状調査グループ)



補助犬(盲導犬・聴導犬・介助犬)のそれぞれの歴史や養成の費用やその活用の実態、問題点などを詳しく調査して、わかりやすくまとめることができました。

D「視覚障がいとバリアフリー」… (疑似体験と京都ライトハウス訪問)

校内で視覚障がい者の疑似体験や「手引き」の練習を行ったうえで、京都ライトハウスを訪問。全盲である職員の方から直接案内していただき、施設の紹介、手引き、障がい者でもできるゲームやスポーツ、点字などを実演を交えて体験しながら学習できた。



◆◆◆コース内発表◆◆◆

全グループともパワーポイントを使っての発表しました。それぞれの発表の後、質疑応答しながら意見交流をして、自分たちの活動の意義を確認しました。

◆◆◆このコースで学んで◆◆◆ (コース内発表を終えて)

- どのグループの発表を聞いても、それぞれの障がいについて「知る」ということが一番大切なのではないかと思った。知らない、やっぱり偏見を持ってしまう。いろいろな障がいについて知ることができたのがこのコースの中で一番の収穫だったと思う。
- 普通に生活していたら絶対に詳しく知ることがなかったことを、たくさん調べて新しいことが知れたのがうれしい、一番良かったことは伏見工房の人たちや視覚障がいの方と会話できたことだ。これからの自分の日常にも良い影響になったと思う。
- 障がい者の人たちへの偏見、先入観から「怖い」と思っていたけれど、人は温かい心を持っていれば、どんな人とも接することができるんだと改めて思った。
- 協力することを通して、体験したことや自分の考えも一つになるということ、また、思ったことや体験をみんなですること、一番身につけられると感じた。
- 障がい者への偏見がなくなって、同じ目線で対することができるようになった。
- 「障がい」という重いテーマだったが、偏見どうのこうのというより、障がい者だからどうこうするというのではなく、普通の人として接することを学んだ。